

テメキュラ市 訪問記④

(最終回)

昨年(2013年)の7月25日から8月5日の日程で、大山町の姉妹都市アメリカのテメキュラ市を中学生8

人が訪問しました。これまで3回にわたり参加者の感想の一部を紹介してきましたが、今回で最終回となります。今回は、大山中学校3年生の馬田あすかさん、中山中学校3年生の細谷里咲子さん、中山中学校の高橋校長の感想文の要約です。

発見盛りだくさんの研修

大山中学校 3年 馬田あすか

アメリカへ出発する日、私はアメリカに着くまで不安と楽しみにあふれていました。

しかし、アメリカに着いてからは、そんな思いはどこかへ消えてしまうほど、楽しく、充実した12日間を送ることができました。

見たこと、感じたこと、思ったこと、したこと1つ1つがとても印象強く残りました。

とても印象に残った1つ目は、アメリカの食べ物です。アメリカの朝食は、シリアルやフルーツ、マフィン、ドーナツを食べる日が多かったです。朝食を食べるといっても、おやつを食べているような感じでした。日本のように、朝から魚や肉などを食べないことに驚きました。

2つ目は、施設見学などで見たこと、感じたことです。エンジェルス対レイズの大リーグ観戦は、とても楽しみにしていました。アメリカでは球団に応援団がないため、日本の野球観戦よりも静かで驚きました。マルガリータミドルスクールの訪問では、校内を見学しました。アメリカは、先生の教室に生徒が行くのでたくさんの教室がありました。

3つ目は、ホストファミリーと過ごした時間です。ホストファミリーとは、とても楽しい時間を過ごすことができました。

4つ目は、コミュニケーションについてです。最初は、アメリカの人が何を言っているのか聞き取ることができなくて、なかなか話しかけることができませんでした。しかし、何回も聞いているうちに少しずつ答えることができるようになりました。

この研修を通してたくさんのことを学び、経験することができました。この経験は、これからの生活に生かしていけることがいっぱいでした。一生忘れないようなアメリカ研修にすることができてよかったです。



▶ホストファミリー宅にて

テメキュラ交流研修を終えて

中山中学校 校長 高橋 紳夫

大山町内3中学校の生徒8人で、国際交流事業として、カリフォルニア州テメキュラ市にホームステイを中心とした研修に行ってきました。

この事業に先だち、5月11日の夜から参加生徒が集まり、大山町の中学校代表として8回に渡って研修をしました。研修を重ねるにしたがって、異なる中学校で生活している生徒たちが打ち解け、お互いを理解し合いながら、協力して研修が進んで

いったように感じました。研修を重ねる中で、しっかりと自分を表現する自信をつけていったように思います。

表敬訪問を行ったテメキュラシビックセンターでは、「大山町の紹介」「学校紹介」等、何も見ないでしっかりと前を向き、英語でプレゼンテーションを行うとともに、「ふるさと」の合唱、「さくら」の演奏をしました。プレゼンテーション終了後、参加された多くの皆さんから素晴らしいプレゼンテーションだったと賛辞をいただきました。

ホームステイをした生徒たちは、ホストファミリーとの交流を通して貴重な体験をしたと思います。